

刀根早生(とねわせ)

登録番号：第28号

育成者：刀根淑民

登録年月日：昭和55年3月31日

来歴：「平核無」の枝変わり

登録者：岩橋保(和歌山県那賀郡
桃山町調月)

特 性

■栽培特性

「平核無」の枝変りで、樹姿、樹勢、果実等の形質は「平核無」とほぼ同様であるが、成熟期が「平核無」より10～15日程度早い早生の渋柿である。樹勢は強く、大木となり、樹姿の開張度はほぼ中間型で、枝梢は太く、長く、その発生密度は中くらいである。葉は葉身の基部が「杉田早生」に比べて平らで、「平核無」に似ており、葉脚の広い長楕円形である。発芽期は早生で、「平核無」と同様で、「富有」より早く、晩霜の害を受けやすい。発芽直後の新梢が晩霜害を受けると、収量および品質を著しく低下するので、植栽に当たっては特に注意を要する。その他の栽培法は「平核無」に準ずるが、特にこの品種は単為結実性が高く、結果量が多く、かつ果実の肥大が良好で、豊産性であり、結果過多になりやすい。その結果、幼木時代、強勢の樹勢が結果樹齡に達して急激に衰えることがある。また、土壌は耕土の深い比較的肥沃地を好み、耕土の浅いやせ地では、夏期、高温乾燥期に干ばつの被害を受け、果実の肥大、着色等が不良となり、肉質の軟化等による生理障害によって商品性を失うことがある。

■果実特性

果実の特性は「平核無」とほぼ類似しているが、大きさは「平核無」よりやや大である。果実の外観は扁円形で、横断面は方形、果皮の色は「平核無」よりやや濃い橙色で光沢がある。亀甲紋、条紋ともになく、平滑で、果頂裂果、へたすき果はないが、汚染果の発生はやや多い。着色の揃いは比較的良好で、外観がすぐれ、商品化率は高い。果肉は淡黄橙色で、肉質はやや粘質を帯びた漿質で、繊維は少なく、甘味は中位（アルコール脱渋後の糖度14～16度）で、無核、柔軟多汁で、風味は極めて良好である。酢がきとしては品質極上、干がきとしても無核で歩止りがよく、品質極上である。脱渋は比較的容易であるが、脱渋後軟化しやすいので、ガス脱渋法が適している。

■病害虫抵抗性

虫害では、クロフタモンマダラメイガ、ヒメコスカシバ等の枝幹害虫および開花期にチャノキイロアザミウマ、4～7月にかけて、カキクダアザミウマの被害があり、最近カメムシによる被害が多発している。病害では落葉病、うどんこ病の防除対策と炭そ病対策にも留意する。

■地域適応性

東北地方から九州地方にいたる広い範囲に適應し、「富有」に比べてやや冷涼な氣候を好み、特に「平核無」の栽培地帯で急速に導入されている。農林水産省の調査により最近の傾向を見ると、昭和63年、全国で1,480ha、そのうち、和歌山が598.0ha、奈良315.0ha、新潟118.4ha、愛媛75.5ha、山形70.0haで、和歌山県の栽培面積が最も広い。立地条件では晩霜害の現われない緩傾斜地または平坦地で、土壌は耕土の深い肥沃地が適しており、過乾、過湿の条件はさける。

(富田栄一)